

■榎本弥左衛門(忠重)

えのもとやざえもん
寛永寺創建・1625=

川越城下町商人。水運利用して関東一円に塩販売。江戸前期の商人の生き方示す覚書を残した。

武蔵国川越で、代々豪商・名主の榎本家の次男に生まれる。

幼時は臆病者だったが、

成長するに従い腕白となり、

徳川秀忠没・1632= 7歳 :

鎖国令Ⅱ・1634= 9歳 :

参勤交替始・1635=10歳 : 上層町人の子として、浪人のもとに通って手習いと謡の稽古を始め、
東照宮完成・1636=11歳 : その浪人が死去すると、寺子屋に通って、仮名書き程度の学習を続ける一方、

島原の乱終・1638=13歳 : 川越大火に遭遇した際には、鐘を持って火事場の見張りをし、
鎖国令Ⅴ・1639=14歳 : 5つ年上で川越一の男伊達から喧嘩を仕掛けられて大立ち回り、僧侶の仲裁で事なきを得る一方、**初めて(東)松山の市へ家業の塩売りに出かけ、**

寛永飢饉始・1640=15歳 : 江戸にも出かけ、
家光鎖国完成1641=16歳 : 江戸の outlet に詰めるようになる。父の命で、この年まで、木綿のみ着用。
この間、**父から遺言書を見せられ、後継ぎとしての自覚も促されて、商売に専念するようになり、**

寛永飢饉終・1643=18歳 :
明滅亡・1644=19歳 : 川越藩士を烏帽子役に元服。**早くも、40になったら隠居するという人生設計をたてて、**

当面の商売に集中し、

御蔭参流行・1650=25歳 : この頃には、江戸で一二を争う塩目利きとなり、他の商品取引も順調であったが、

徳川家光没・1651=26歳 : **家督を狙う弟が讒訴したため、両親から疎まれ、その精神的衝撃と信頼の回復のため、伊勢参宮を始め、**
承応事件・1652=27歳 : **この年の伊勢参宮で、途中の見聞を詳しく書き留めたり、情報交換も怠らずに勉強、**
野郎歌舞伎始1653=28歳 : ***晴れて、家産を譲られる。**

繁盛するようになって、その価値を認識して、木綿で通す。

明暦の大火・1657=32歳 : (江戸時代最大の)明暦の大火に遭遇、江戸の店の全てを失った上、九死に一生を得て川越に戻るも、
人身売買禁止1658=34歳 : 母・妻・父を立て続けに失った上、自らも体調不良となり、

清帝国始・1661=36歳 : この頃には、**将来土蔵・屋敷を本格的に整備すべしと、以後、機会あるごとに資材・資金を蓄えて行く。**

弟との相続争いが再燃するなど、不幸続きであったが、

世間や藩家老らからは清廉で礼儀正しいと高い評価を得て、

酒井忠清大老1666=41歳 :

足利学校再建1668=43歳 : ***藩主松平輝綱に拜謁を許され、正式に家督を相続して弥左衛門を襲名。弟との争いにも終止符。**

..... 1670=45歳 :

..... 1671=46歳 : この頃には、将来塩の仲買が衰えると考えて、地主経営や貸金業への転換も模索し、

..... 1676=51歳 : **16年前から構想し、蓄えてきた資材・資金を投じて土蔵・屋敷などを大普請。**

越後騒動・1679=54歳 :

徳川綱吉將軍1680=55歳 : ***子孫を奢り無く育てるためにと、自らの一代記「三子より之覚」を書き始め、この年嫁いでいった娘にも十一か条の教えを書き与える。息子には、二十六か条にわたる処世訓を与え、うち七か条は衣服に関し、質実な生き方を強調、**

天下一禁止・1681=56歳 : **家業についての七か条をまとめる一方、先祖供養の方式を整備して、**

堀田正俊暗殺1684=59歳 :

..... 1686=61歳 : **没した。**